



Informatica® Data Integration Hub
10.5

リリースガイド

本ソフトウェアおよびマニュアルは、使用および開示の制限を定めた個別の使用許諾契約のもとでのみ提供されています。本マニュアルのいかなる部分も、いかなる手段（電子的複製、写真複製、録音など）によっても、Informatica LLC の事前の承諾なしに複製または転載することは禁じられています。

米政府の権利プログラム、ソフトウェア、データベース、および関連文書や技術データは、米国政府の顧客に配信され、「商用コンピュータソフトウェア」または「商業技術データ」は、該当する連邦政府の取得規制と代理店固有の補足規定に基づきます。このように、使用、複製、開示、変更、および適応は、適用される政府の契約に規定されている制限およびライセンス条項に従うものとし、政府契約の条項によって適当な範囲において、FAR 52.227-19、商用コンピュータソフトウェアライセンスの追加権利を規定します。

Informatica、Informatica ロゴ、Informatica Cloud、PowerCenter、および Big Data Management は、米国およびその他の国における Informatica LLC の商標または登録商標です。Informatica の商標の最新リストは、Web (<https://www.informatica.com/trademarks.html>) にあります。その他の企業名および製品名は、それぞれの企業の商標または登録商標です。

本ソフトウェアまたはドキュメンテーション（あるいはその両方）の一部は、第三者が保有する著作権の対象となります。必要な第三者の通知は、製品に含まれています。

特許については、<https://www.informatica.com/legal/patents.html> を参照してください。

免責: 本文書は、一切の保証を伴わない「現状渡し」で提供されるものとし、Informatica LLC は他社の権利の非侵害、市場性および特定の目的への適合性の黙示の保証などを含めて、一切の明示的および黙示的保証の責任を負いません。Informatica LLC では、本ソフトウェアまたはドキュメントに誤りのないことを保証していません。本ソフトウェアまたはドキュメントに記載されている情報には、技術的に不正確な記述や誤植が含まれる場合があります。本ソフトウェアまたはドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。

NOTICES

この Informatica 製品（以下「ソフトウェア」）には、Progress Software Corporation（以下「DataDirect」）の事業子会社である DataDirect Technologies からの特定のドライバ（以下「DataDirect ドライバ」）が含まれています。DataDirect ドライバには、次の用語および条件が適用されます。

1. DataDirect ドライバは、特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。
2. DataDirect または第三者は、予見の有無を問わず発生した ODBC ドライバの使用に関するいかなる直接的、間接的、偶発的、特別、あるいは結果的損害に対して責任を負わないものとします。本制限事項は、すべての訴訟原因に適用されます。訴訟原因には、契約違反、保証違反、過失、厳格責任、詐称、その他の不法行為を含みますが、これらに限るものではありません。

本マニュアルの情報は、予告なしに変更されることがあります。このドキュメントで問題が見つかった場合は、infa_documentation@informatica.com までご報告ください。

Informatica 製品は、それらが提供される契約の条件に従って保証されます。Informatica は、商品性、特定目的への適合性、非侵害性の保証等を含めて、明示的または黙示的ないかなる種類の保証をせず、本マニュアルの情報を「現状のまま」提供するものとします。

発行日: 2021-05-31

目次

序文	6
Informatica のリソース	6
Informatica Network	6
Informatica ナレッジベース	6
Informatica マニュアル	6
Informatica 製品可用性マトリックス	7
Informatica Velocity	7
Informatica Marketplace	7
Informatica グローバルカスタマサポート	7
第 1 章: バージョン 10.5	8
新機能と改良点	8
イベント REST API	8
イベントのパーズスクリプト	8
API を使用してデータを処理するサブスクリプションのデータの再処理と再コンシューム	8
監視と追跡	9
Cloud 統合ハブでの Data Integration Hub のイベントの表示	9
サイレントモードでのアップグレードのサポート	9
クラウドタスクのプロジェクトとフォルダの表示	9
変更内容	9
第 2 章: バージョン 10.4.1	10
新機能と改良点	10
パブリケーションおよびサブスクリプション	10
ダッシュボード	10
REST API を使用したイベントステータスの変更	11
監視と追跡	11
操作コンソールでのスプラッシュメッセージの追加	12
サイレントインストールのサポート	12
変更内容	12
第 3 章: バージョン 10.4.0	13
新機能と改良点	13
トピックタグ	13
トピックテーブルの追加 (メタデータファイルから)	13
エンティティの複製	13
エクスポートとインポート	14
ワークフロー権限の定義	14
サブスクリプションスケジューラの頻度	14
PowerCenter ワークフローおよびマッピング	14

変更内容.....	14
第 4 章 : バージョン 10.2.4.....	15
新機能と改良点.....	15
Big Data.....	15
リレーショナルデータベースへの ODBC 接続.....	15
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	15
第 5 章 : バージョン 10.2.3.....	17
新機能と改良点.....	17
Big Data.....	17
Data Integration Hub ワークフロー.....	17
エンティティ管理.....	17
イベント.....	18
Hub 概要.....	18
監視と追跡.....	18
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	18
変更内容.....	19
第 6 章 : バージョン 10.2.2.....	20
新機能と改良点.....	20
Big Data.....	20
トピックの管理.....	20
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	20
Informatica Intelligent Cloud Services への接続.....	21
変更内容.....	21
第 7 章 : バージョン 10.2.1.....	22
新機能と改良点.....	22
リポジトリ.....	22
トピックの管理.....	22
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	23
Informatica Cloud への接続(R).....	23
変更内容.....	23
第 8 章 : バージョン 10.2.....	24
新機能と改良点.....	24
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	24
変更内容.....	25
第 9 章 : バージョン 10.1.1.....	26
新機能と改良点.....	26
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	26

Hub 概要図.....	26
第 10 章: バージョン 10.1.....	27
新機能と改良点.....	27
Big Data.....	27
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	27
監視と追跡.....	28
セキュリティ.....	28
変更内容.....	28
第 11 章: バージョン 10.0.....	29
新機能と改良点.....	29
パブリケーションおよびサブスクリプション.....	29
監視と追跡.....	29
変更内容.....	30
索引.....	31

序文

『Data Integration Hub リリースガイド』を使用して、新機能、機能拡張、および Data Integration Hub のバージョンごとの動作の違いについて学習します。

Informatica のリソース

Informatica は、Informatica Network やその他のオンラインポータルを通じてさまざまな製品リソースを提供しています。リソースを使用して Informatica 製品とソリューションを最大限に活用し、その他の Informatica ユーザーや各分野の専門家から知見を得ることができます。

Informatica Network

Informatica Network は、Informatica ナレッジベースや Informatica グローバルカスタマサポートなど、多くのリソースへの入口です。Informatica Network を利用するには、<https://network.informatica.com> にアクセスしてください。

Informatica Network メンバーは、次のオプションを利用できます。

- ナレッジベースで製品リソースを検索できます。
- 製品の提供情報を表示できます。
- サポートケースを作成して確認できます。
- 最寄りの Informatica ユーザーグループネットワークを検索して、他のユーザーと共同作業を行えます。

Informatica ナレッジベース

Informatica ナレッジベースを使用して、ハウツー記事、ベストプラクティス、よくある質問に対する回答など、製品リソースを見つけることができます。

ナレッジベースを検索するには、<https://search.informatica.com> にアクセスしてください。ナレッジベースに関する質問、コメント、ご意見の連絡先は、Informatica ナレッジベースチーム (KB_Feedback@informatica.com) です。

Informatica マニュアル

Informatica マニュアルポータルでは、最新および最近の製品リリースに関するドキュメントの膨大なライブラリを参照できます。マニュアルポータルを利用するには、<https://docs.informatica.com> にアクセスしてください。

製品マニュアルに関する質問、コメント、ご意見については、Informatica マニュアルチーム (infa_documentation@informatica.com) までご連絡ください。

Informatica 製品可用性マトリックス

製品可用性マトリックス（PAM）には、製品リリースでサポートされるオペレーティングシステム、データベースなどのデータソースおよびターゲットが示されています。Informatica PAM は、<https://network.informatica.com/community/informatica-network/product-availability-matrices> で参照できます。

Informatica Velocity

Informatica Velocity は、Informatica プロフェッショナルサービスが開発したヒントとベストプラクティスのコレクションで、多数のデータ管理プロジェクトから得た実体験に基づいています。Informatica Velocity には、世界中の組織と連携してデータ管理ソリューションを計画、開発、デプロイ、管理する Informatica コンサルタントによる集合知を表しています。

Informatica Velocity リソースには、<http://velocity.informatica.com> からアクセスしてください。Informatica Velocity についての質問、コメント、またはアイデアがある場合は、ips@informatica.com から Informatica プロフェッショナルサービスにお問い合わせください。

Informatica Marketplace

Informatica Marketplace は、お使いの Informatica 製品を拡張したり強化したりするソリューションを検索できるフォーラムです。Marketplace で、Informatica デベロッパーやパートナーからの多数のソリューションを活用すれば、生産性を向上したり、プロジェクトでの実装時間を短縮したりできます。Informatica Marketplace は、<https://marketplace.informatica.com> からアクセスしてください。

Informatica グローバルカスタマサポート

電話または Informatica Network からグローバルサポートセンターに連絡できます。

各地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号は、Informatica Web サイト（<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>）を参照してください。

Informatica Network でオンラインサポートリソースを見つけるには、<https://network.informatica.com> にアクセスし、eSupport オプションを選択します。

第 1 章

バージョン 10.5

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 8 ページ](#)
- [変更内容, 9 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは、Data Integration Hub 10.5 の新機能と改良点について説明します。

イベント REST API

Data Integration Hub のイベント API を使用して、検索条件に基づいてイベントのリストを取得します。API は、イベントの履歴や子イベントなどの詳細を返します。

詳細については、『*Data Integration Hub 開発者ガイド*』を参照してください。

イベントのパージスクリプト

パージバッチスクリプト（`purge.bat` または `purge.sh`）を使用して、Data Integration Hub リポジトリに保存されているイベントを削除します。イベントをパージするには、アーカイブ特権が必要です。

詳細については、『*Data Integration Hub 管理者ガイド*』を参照してください。

API を使用してデータを処理するサブスクリプションのデータの再処理と再コンシューム

API を使用してデータをコンシュームするサブスクリプションに対して次のアクションを実行できます。

- エラーステータスのイベントを再処理することで、失敗したサブスクリプションの実行とパブリッシュされたデータのコンシュームを試行する。
- 完了ステータスのイベントをトリガすることで、以前に処理されたデータを再コンシュームする。

詳細については、『*Data Integration Hub 開発者ガイド*』を参照してください。

監視と追跡

接続の更新アクションおよび削除アクションの監視

接続を監視し、選択した接続またはすべての接続にルールを適用できます。これには、現在の接続、またはルールを作成後に Data Integration Hub に追加された接続が含まれます。

アセットの更新アクションおよび削除アクションの監視

削除や更新などのアセットの操作を監視できます。これらのアセットには、パブリケーション、サブスクリプション、または接続のルールを適用できます。

詳細については、『*Data Integration Hub オペレータガイド*』を参照してください。

Cloud 統合ハブでの Data Integration Hub のイベントの表示

Data Integration Hub のイベントは、Cloud 統合ハブの【イベント】ページで表示できます。最初に、Data Integration Hub のイベントが表示されるように Cloud 統合ハブを設定する必要があります。

詳細については、『*Data Integration Hub オペレータガイド*』を参照してください。

サイレントモードでのアップグレードのサポート

Data Integration Hub は、サイレントモードでのすべての Data Integration Hub コンポーネントのアップグレードをサポートしています。

詳細については、『*Data Integration Hub インストールと環境設定ガイド*』を参照してください。

クラウドタスクのプロジェクトとフォルダの表示

クラウドベースのパブリケーションとサブスクリプションのフォルダパス、マッピング名、およびクラウドタスクの説明を表示できます。

詳細については、『*Data Integration Hub オペレータガイド*』を参照してください。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.5 の変更点について説明します。

「イベントタイプ」が「監視タイプ」という名前に変更されました

選択した接続、現在のすべての接続、または操作コンソール内でルールを作成した後に Data Integration Hub に追加されたすべての接続にルールを適用できるようになりました。

以前は、パブリケーションとサブスクリプションにのみ、ルールを適用することができました。

第 2 章

バージョン 10.4.1

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 10](#) ページ
- [変更内容, 12](#) ページ

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.4.1 の新機能と改良点について説明します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

パブリケーションおよびサブスクリプションに対する権限の割り当て

操作コンソールでのパブリケーションおよびサブスクリプションへのアクセスを制御するには、カテゴリを割り当てます。カテゴリを割り当て、ユーザーがパブリケーションおよびサブスクリプションを表示または変更できるようにします。パブリケーションおよびサブスクリプションに対する権限を割り当てるのは、関連付けられているアプリケーションにカテゴリが割り当てられている場合のみです。カテゴリをパブリケーションとサブスクリプションに割り当てない場合、関連付けられているアプリケーションからのカテゴリが継承されます。カテゴリがアプリケーションに割り当てられていない場合、すべての Data Integration Hub ユーザーがパブリケーションおよびサブスクリプションにアクセスできます。

サブスクリプションの [無効] モード

サブスクリプションに対する [無効] モードの有用性が改善されました。サブスクリプションが [無効] モードの場合にパブリッシュされたデータをコンSUMEできません。サブスクリプションは、スケジュールに従って実行されることも、外部 API によって実行されることもありません。関連するパブリケーションが正常に実行されると、無効になっているサブスクリプションは遅延イベントを作成しません。

PowerCenter ターゲットロード順の指定

PowerCenter 統合サービスがターゲットテーブルをロードする順序を指定できます。これは、データを PK/FK リレーションを含むトピックからコンSUMEするサブスクリプションにのみ適用されます。プライマリキーおよび外部キー制約のあるテーブルの挿入、削除、または更新時に参照整合性を維持する場合に役立ちます。

詳細については、『*Data Integration Hub オペレータガイド*』を参照してください。

ダッシュボード

バージョン 10.4.1 以降では、オペレーショナルデータストアを使用するダッシュボードは廃止されています。オペレーショナルデータストアを使用するダッシュボードはバージョン 10.4.1 ではサポートされていますが、

以降のリリースではサポート対象外となる予定です。Data Integration Hub バージョン 10.4.1 には、Data Integration Hub メタデータリポジトリを使用するデフォルトのダッシュボードが搭載されています。デフォルトのダッシュボードを使用することをお勧めします。

詳細については、『*Data Integration Hub オペレータガイド*』を参照してください。

以下の表に、メタデータリポジトリを使用するダッシュボードとオペレーショナルデータストアを使用するダッシュボードの動作の違いについて説明します。

アクション	メタデータリポジトリを使用するダッシュボード	オペレーショナルデータストアを使用するダッシュボード
インストール	ダッシュボードはデフォルトでインストールされています。	Data Integration Hub インストーラに一覧表示されているダッシュボードとレポートのコンポーネントをインストールする必要があります。
ライセンス	ライセンスは不要です。	logiXML ライセンスが必要です。
データベースユーザー	新しいデータベースユーザーの作成は不要です。	新しいデータベースユーザーを作成する必要があります。
設定	設定は不要です。	追加設定が必要です。詳細については、『 <i>Data Integration Hub インストール & 環境設定ガイド</i> 』を参照してください。
レポート	【イベント分布】レポートで、【エラーイベント】を【イベントステータス】として選択し、【エラーイベント分布】レポートを表示します。	【エラーイベント分布】レポートが個別のパネルに表示されます。
タブのカスタマイズ	カスタマイズされたタブをダッシュボードに追加することはできません。	カスタマイズされたタブをダッシュボードに追加できます。
レポートのデータが更新される時間間隔	レポートにはリアルタイムのデータが表示されます。	データは実行されている ETL マップによって異なります。

詳細については、『*Data Integration Hub インストール & 環境設定ガイド*』を参照してください。

REST API を使用したイベントステータスの変更

Data Integration Hub Change Event Status API を使用して、既存イベントのステータスを変更します。詳細については、『*Data Integration Hub 開発者ガイド*』を参照します。

監視と追跡

モニタに対する権限の割り当て

モニタに対する権限ルールに割り当てるカテゴリを選択できます。ルールにカテゴリを割り当てない場合は、すべての Data Integration Hub ユーザーがルールにアクセスできます。

イベントステータスの監視

指定時間に基づいてイベントを監視し、アクションを割り当てることができます。

<selected_statuses>**ステータスのイベントの破棄**

【非最終】 イベント状態のイベントにのみ適用します。Data Integration Hub は、設定時間を過ぎると非最終ステータスの選択したイベントを破棄します。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.1 オペレータガイド*』を参照してください。

操作コンソールでのスプラッシュメッセージの追加

Data Integration Hub 管理者は `dih.splash.message` システムプロパティを使用して、スプラッシュメッセージがすべてのユーザーに表示されるように定義することができます。機能を発表したり、ダウンタイムやアラートに関するメッセージを書き込んだりすることができます。メッセージには最大 200 文字使用できます。

詳細については、『*Data Integration Hub 管理者ガイド*』を参照してください。

サイレントインストールのサポート

Data Integration Hub は、単一ノードのサイレントモードのすべての Data Integration Hub コンポーネントのフレッシュインストールをサポートしています。ただし、サイレントインストーラを使用した Data Integration Hub のアップグレードと、Data Integration Hub の高可用性マルチノードインストールはサポートされていません。

詳細については、『*Data Integration Hub インストール & 環境設定ガイド*』を参照してください。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.4.1 の変更点について説明します。

【無効】 モードが【一時停止】 モードに名前変更されました。

サブスクリプションの **【無効】** モードがサブスクリプションの **【一時停止】** モードに名前変更されました。このモードでは、サブスクリプションを操作コンソール内から手動で実行して、遅延イベントをコンシュームすることのみ可能です。サブスクリプションは、スケジュールに従って実行されることも、外部 API によって実行されることもありません。

サブスクリプションのモードを **【有効】**、**【一時停止】**、または **【無効】** に設定できるようになりました。以前は、サブスクリプションのモードは **【有効】** または **【無効】** にのみ設定可能でした。

以下のラベルが変更されました。

- サブスクリプションの作成時に、**【モード】** カテゴリ下の **【全般】** タブの **【無効】** ラベルが **【一時停止】** に変更されています。
- アプリケーションの作成または編集時に、**【アクション】** メニュー下の **【サブスクリプション】** タブの **【すべて無効化】** ラベル **【すべて一時停止】** に変更されています。

以前は、**【一時停止】** モードは **【無効】** モードでした。

第 3 章

バージョン 10.4.0

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 13 ページ](#)
- [変更内容, 14 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.4.0 の新機能と改良点について説明します。

トピックタグ

トピックにタグを割り当てると、**[トピック]** ページと **[カタログ]** ページで関連付けられているトピックを簡単にフィルタできます。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 オペレータガイド*』の「トピックプロパティ」の章を参照してください。

トピックテーブルの追加（メタデータファイルから）

パブリケーションリポジトリ向けのトピック構造をリレーショナルデータベースまたは Hadoop リポジトリに定義するときに、メタデータファイルからトピックテーブルを追加できます。Data Integration Hub は、JSON、XLS、XLSX、および XML のファイル形式をサポートします。メタデータファイルを使用してトピックテーブルを作成するときは、ファイルでテーブル属性を定義してから Data Integration Hub にロードできます。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 オペレータガイド*』の「トピック」の章を参照してください。

エンティティの複製

トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションを複製できます。エンティティを複製すると、Data Integration Hub は、ソースエンティティと同じプロパティを持つ新しいエンティティを別の名前で作成します。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 オペレータガイド*』を参照してください。

エクスポートとインポート

アプリケーション、トピック、パブリケーション、サブスクリプション、接続、ワークフロー、および監視ルールなどの Data Integration Hub エンティティを操作コンソールでエクスポートおよびインポートできます。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 開発者ガイド*』の「エクスポートとインポート」の章を参照してください。

以前のリリースでは、インポートとエクスポートのユーティリティを使用して、オブジェクトをインポートおよびエクスポートしていましたが、Data Integration Hub 10.4.0 でも引き続き同じようにできます。

ワークフロー権限の定義

Data Integration Hub ワークフローを作成または編集するときに、ワークフローのカテゴリを選択できます。

ワークフローのカテゴリを選択した場合、選択したカテゴリのうちの少なくとも 1 つを持つユーザーグループに属しているユーザーのみが、そのワークフローに対する権限を持ちます。ワークフローのカテゴリを選択しない場合は、すべてのユーザーがそのワークフローに対する権限を持ちます。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 開発者ガイド*』の「Data Integration Hub ワークフロー」の章を参照してください。

サブスクリプションスケジュールの頻度

定義されたスケジュールに従ってサブスクリプションを実行する場合に、時間間隔を 2、3、および 4 分に設定できます。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 オペレータガイド*』の「サブスクリプションプロパティ」の章を参照してください。

PowerCenter ワークフローおよびマッピング

Data Integration Hub ワークフローを作成するために使用する PowerCenter ワークフローとマッピングのサイズが、10MB から 20MB に増えました。

詳細については、『*Data Integration Hub 10.4.0 開発者ガイド*』の PowerCenter マッピングおよびワークフローに関する章を参照してください。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.4.0 の変更点について説明します。

複合サブスクリプション

最初のトピックを使用する準備ができた時点からすべての必須トピックを使用する準備ができるまでの待機時間を、分単位で指定します。

以前は、待機時間は時間単位で指定していました。

第 4 章

バージョン 10.2.4

- [新機能と改良点, 15 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.2.4 の新機能と改良点について説明します。

Big Data

Data Integration Hub のトピックテーブルのデータ構造

オペレータが Enterprise Data Catalog リソースからテーブルをインポートすると、Data Integration Hub がその Enterprise Data Catalog リソースのデータ構造からトピックテーブルの標準データ構造を取得します。

以前は、オペレータが Enterprise Data Catalog リソースから Data Integration Hub にテーブルをインポートすると、Data Integration Hub はすべてのデータを文字列として読み取っていました。

Data Integration Hub リネージュにおける Apache Kafka のサポート

Data Integration Hub リネージュで、Apache Kafka トピックとカスタムパススルー Kafka パブリケーションおよびサブスクリプションのデータフローが Enterprise Data Catalog ユーザーインターフェースに表示されます。

リレーショナルデータベースへの ODBC 接続

Data Integration Hub の管理者は、ODBC 接続を作成して、Microsoft SQL Server、Oracle、IBM DB2、PostgreSQL 以外のリレーショナルデータベースに接続できます。ODBC 接続タイプは ODBC を介してデータベースに接続します。たとえば、MySQL データベースへの ODBC 接続を作成できます。

Data Integration Hub のオペレータは、その ODBC 接続をパブリケーションソース接続やサブスクリプションターゲット接続として使用したり、データベースからトピックテーブルを追加するために使用したりできます。

パブリケーションおよびサブスクリプション

ターゲットテーブルの作成

Data Integration Hub のオペレータは、自動リレーショナルデータベースサブスクリプションを作成する際に、ターゲットテーブルが存在しない場合は作成するようにサブスクリプションを設定できます。

Data Integration Hub では、ネイティブドライバで接続するリレーショナルデータベースのターゲットテーブルを作成できます。カスタム接続で接続するデータベースのターゲットテーブルは作成できません。

マルチレイテンシパブリケーション

Data Integration Hub のオペレータは、PowerCenter リアルタイムワークフローを使用して、Apache Kafka を使用する PowerCenter リアルタイムマッピングから Data Integration Hub にデータをパブリッシュできます。

第 5 章

バージョン 10.2.3

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 17 ページ](#)
- [変更内容, 19 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.2.3 の新機能と改良点について説明します。

Big Data

Informatica Enterprise Catalog との統合

Data Integration Hub オペレータは、Enterprise Data Catalog アセットからトピックテーブルを追加できます。

Enterprise Data Catalog アセットからトピックテーブルを追加するには、Data Integration Hub 管理者は Data Integration Hub で Enterprise Data Catalog のシステムプロパティを設定する必要があります。

Data Integration Hub ワークフロー

Big Data Management ワークフロー

Data Integration Hub 開発者は、Developer tool を使用して Big Data Management ワークフローを開発します。Data Integration Hub 管理者は、複数の Big Data Management マッピングを使用して、パブリケーションおよびサブスクリプション用の Big Data Management ワークフローを作成します。

Data Quality ワークフロー

Data Integration Hub 開発者は、Developer tool を使用して Data Quality ワークフローを開発します。Data Integration Hub 管理者は、複数の Big Data Management マッピングを使用して、パブリケーションおよびサブスクリプション用の Data Quality ワークフローを作成します。

エンティティ管理

一括削除

Data Integration Hub 管理者は、CLI を使用して複数のエンティティの削除操作を実行できます。Data Integration Hub オペレータは、アプリケーション、パブリケーション、サブスクリプション、ワークフ

ロー、トピック、接続などの Data Integration Hub エンティティを削除できます。複数のエンティティが存在する場合は、Data Integration Hub 管理者は、エンティティを 1 つずつ削除する代わりに一括して Data Integration Hub エンティティを削除できます。

エンティティ名

Data Integration Hub ユーザーは、アプリケーション、接続、パブリケーション、サブスクリプション、ワークフローなどのエンティティの名前を 64 文字以内で作成できます。トピック名には最大 48 文字まで含めることができます。

イベント

Data Integration Hub 管理者は、システムイベントの監視ルールを作成できます。

Hub 概要

Data Integration Hub 操作コンソールのホームページには Hub 概要図が表示されます。Hub 概要図では、既存のエンティティがカテゴリにグループ化され、その概要が視覚的に示されます。

Hub 概要

Hub 概要図の Hub 概要ビューには、トピック、関連アプリケーション、パブリケーション、サブスクリプションなど、Data Integration Hub で設定されるすべてのエンティティが表示されます。

Hub 概要図のトピックの検索

Hub 概要図でトピックを検索するには、[トピックの検索] ボタンをクリックし、トピックの名前を入力します。検索条件に一致するトピックと関連エンティティが Hub 概要図に表示されます。

Hub 概要図からのエンティティの編集ウィザード

Hub 概要図のドリルダウンビューでエンティティをクリックします。選択したエンティティの編集ウィンドウが表示されます。

監視と追跡

Data Integration Hub 管理者は、システムのイベントタイプを使用して監視ルールを作成し、システムイベントを監視できます。

パブリケーションおよびサブスクリプション

検索

Data Integration Hub コンソールの [アプリケーション] メニューの [パブリケーションおよびサブスクリプション] タブにある検索フィールドを使用して、Data Integration Hub オペレータはパブリケーションおよびサブスクリプションの名前をそれぞれ検索してフィルタ処理できます。

- **[デフォルトの検索結果を再ロード]** ボタンをクリックすると、検索結果がクリアされ、パブリケーションのリストが表示されます。

[検索結果の更新] ボタンをクリックすると、検索結果が更新されます。

複合サブスクリプション

Data Integration Hub オペレータは、複合サブスクリプション内の必須オプションを有効化して、複合サブスクリプション内のいくつかのトピックを他のトピックよりも優先させることができます。Data Integration Hub は、すべてのトピックのパブリケーションイベントが完了すると、サブスクリプション

の処理をトリガします。パブリケーションイベントの待ち時間が経過しても Data Integration Hub がすべての必須トピックをパブリッシュしていない場合、実行時にエラーイベントが生成されます。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.2.3 の変更点について説明します。

Hub 概要

Hub 概要のデフォルトのビューのオプションは、**[Hub 概要]** から **[最もよく使用されるトピック (<トピックの数>)]** に変更されました。例えば、**[最もよく使用されるトピック (25)]** のように表示されます。

オンラインヘルプドキュメント

デフォルトでは、オンラインヘルプドキュメントはホストされているヘルプとして表示されます。

第 6 章

バージョン 10.2.2

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 20](#) ページ
- [変更内容, 21](#) ページ

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.2.2 の新機能と改良点について説明します。

Big Data

Informatica Enterprise Catalog との統合

Data Integration Hub で Informatica Enterprise Catalog を活用して、トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションなどのデータアセットを分類および構成します。

トピックの管理

リアルタイムトピック

リアルタイムパブリケーションリポジトリでトピックを使用して、リアルタイムの Apache Kafka データストリームを監視します。

列レベルおよび行レベルのマスキング

権限ベースのマスキングルールを作成することにより、セキュリティポリシーをトピックテーブルフィールドに適用します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

データドリブンパブリケーションおよびサブスクリプションによりデータをパブリッシュして REST API 経由でデータにサブスクライブする

Data Integration Hub では、事前にスケジュールを定義していなくても、データを受信し次第データドリブンパブリケーションを自動で実行します。Data Integration Hub は、データを処理せずにそのままパブリッシュします。

Data Integration Hub では、事前にスケジュールを定義していなくても、データがパブリケーションリポジトリにパブリッシュされ次第データドリブンサブスクリプションを自動で実行します。

Big Data Streaming マッピングによりデータストリームをパブリッシュする

Big Data Streaming リアルタイムマッピングによりデータを低頻度でパブリッシュします。

データストリームをパブリッシュして Apache Kafka 経由でデータストリームにサブスクライブする

カスタムパススルー Kafka パブリケーションにより、Apache Kafka からのデータストリームをパブリッシュします。カスタムのパススルー Kafka サブスクリプションにより、Apache Kafka にデータストリームをコンシュームします。

パブリケーションおよびサブスクリプションの再試行ポリシー

Data Integration Hub によってトリガされる自動ファイルパブリケーションおよび自動サブスクリプションについては、再試行ポリシーを定義することができます。再試行ポリシーで定義できるのは、パブリケーションまたはサブスクリプションの実行が失敗した場合の Data Integration Hub による再試行の回数、および再試行間隔です。このポリシーは、手動で実行するパブリケーションおよびサブスクリプションには適用されません。

Informatica Intelligent Cloud Services への接続

Data Integration Hub はクラウドパブリケーションおよびクラウドサブスクリプションで Informatica Intelligent Cloud Services のマッピングおよびタスクを使用します。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.2.2 の変更点について説明します。

トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションの作成

トピック、パブリケーション、およびサブスクリプションのウィザードやページには、作成するアセットのタイプを選択するページからアクセスします。

モジュラークラウドパブリケーションおよびサブスクリプション

カスタムクラウドパブリケーションおよびサブスクリプションは、それぞれモジュラーパブリケーションとモジュラーサブスクリプションに名称変更されました。

マルチレイテンシパブリケーション

カスタムリアルタイムパブリケーションは、マルチレイテンシパブリケーションに名称変更されました。

第 7 章

バージョン 10.2.1

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 22 ページ](#)
- [変更内容, 23 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.2.1 の新機能と改良点について説明します。

リポジトリ

Linux では、Data Integration Hub およびパブリケーションリポジトリとして Windows にインストールされている SQL リポジトリを使用できます。このオプションは、PowerCenter(R)バージョン 10 以降を実行しているシステムに適用できます。

トピックの管理

ユーザー定義トピックテーブル名

トピックテーブルを作成すると、Data Integration Hub は、入力された論理名に基づいてテーブルに物理名を割り当てます。テーブルをデータベースに保存する前に、自動的に生成された名前を編集できます。

ユーザー定義トピックテーブルのカラム名

トピックテーブルを作成すると、Data Integration Hub は、テーブル内の各カラムに論理名と物理名を割り当てます。リレーショナルデータベースまたは Hadoop パブリケーションリポジトリを使用するトピックでは、テーブルをデータベースに保存する前に、自動的に生成された名前を編集できます。

トピックテーブルのリレーション

トピックテーブル間のリレーションを定義して、自動データベースおよびフラットファイルサブスクリプションがトピックから使用するデータをフィルタできます。

トピックテーブルとカラムの説明の追加

トピックテーブルを作成するときに、テーブルの説明を追加できます。リレーショナルデータベースまたは Hadoop パブリケーションリポジトリを使用するトピックでは、各テーブルカラムに説明を追加できます。

トピック差分検出

プライマリキーが定義されているトピックテーブルにデルタ検出を適用すると、パブリケーションがトピックに発行されるたびに、Data Integration Hub は、現在のパブリケーションイベントと前のパブリケーションイベントとの間の差分を検出します。Data Integration Hub は、検出された差分を **【新しい行を挿入して、変更された行を更新する】** 配信オプションで構成された自動データベースサブスクリプションに適用します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

自動データベースサブスクリプションでターゲットのデータを削除する

次のいずれかの条件が存在する場合、トピック内に存在しない行を、自動データベースサブスクリプションのターゲットから削除するように選択できます。

- サブスクリプションがサブスクライブするトピックの種類が **【完全】** で、サブスクリプション配信オプションが **【新しい行を挿入して、変更された行を更新する】** である。
- **【新しい行を挿入して、変更された行を更新する】** 配信オプションを持つバインドされていないサブスクリプションである。

自動データベースおよびフラットファイルのパブリケーションおよびサブスクリプションのフィールドに式を追加する

【式エディタ】 にアクセスして、トピックテーブルフィールドに追加するフィールドと関数を選択します。

Informatica Cloud マッピングを持つクラウドベースのアプリケーションへのパブリッシュおよびサブスクライブ

Data Integration Hub 自動クラウドマッピングを使用して、Informatica Cloud マッピングを持つクラウドベースのアプリケーションからデータをパブリッシュおよびサブスクライブします。

Informatica Cloud への接続(R)

Data Integration Hub クラウド接続システムプロパティを使用して、Informatica Cloud サーバーに接続するように HTTP/HTTPS プロキシサーバーを構成します。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.2.1 の変更点について説明します。

トピックフィルタアクセラレータ

フィルタアクセラレータとしてのトピックテーブルカラムの定義は、テーブル構造定義からテーブルリレーション定義に移動されました。

パブリケーションウィザードおよびサブスクリプションウィザード

パブリケーションウィザードおよびサブスクリプションウィザードでは、**【マッピング】** タブの名前が **【処理中】** に変更されました。

第 8 章

バージョン 10.2

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 24 ページ](#)
- [変更内容, 25 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.2 の新機能と改良点について説明します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

自動フラットファイルパブリケーション内のソースファイルの結合

結合を作成すると、複数のソースファイルからデータを取得して、1 つのトピックテーブルに入れることができます。複数の結合を作成したり、結合のデータを組み合わせて新しい結合を作成したりできます。

自動データベースおよびフラットファイルサブスクリプション内のトピックテーブルの結合

結合を作成すると、複数のトピックテーブルからデータを取得して、単一のターゲットテーブルに入れることができます。複数の結合を作成したり、結合のデータを組み合わせて新しい結合を作成したりできます。

自動データベースおよびフラットファイルのパブリケーションでのパブリッシュ対象データのフィルタ

自動データベースまたはフラットファイルのパブリケーションを作成するとき、行をフィルタする条件を定義できます。Data Integration Hub は、パブリケーションの自動マッピングを作成するときにこの定義を使用します。

ファイル転送のサポートの強化

転送が強化され、FTP および FTPS プロトコルがサポートされるようになりました。

オンプレミスでのサブスクリプション後のプロセス

サブスクリプションの後でデータに対してプロセスを実行する必要がある場合、Data Integration Hub からサブスクリプションのプロセスとサブスクリプション後のプロセスの両方を実行することができます。

Data Integration Hub により、サブスクリプションの実行後、サブスクリプション後のプロセスがトリガされます。サブスクリプションが失敗した場合に、サブスクリプション後のプロセスを実行するかどうかを選択できます。サブスクリプションのプロセスとサブスクリプション後のプロセスの両方を最初から最後まで追跡できます。

パブリケーションまたはサブスクリプションを、選択したパブリケーションまたはサブスクリプションの後に実行するようにスケジューリングする

パブリケーションおよびサブスクリプションのスケジュールオプション。特定のパブリケーションまたはサブスクリプションの実行後すぐに実行されるリアルタイムワークフローが設定されているパブリケーションを除き、すべてのタイプのパブリケーションまたはサブスクリプションに設定できます。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.2 の変更点について説明します。

自動リレーショナルデータベースサブスクリプションの"Update Else Insert"配信オプション

[PowerCenter ワークフローに"Update else insert"を適用] オプションの名前が **【新しい行を挿入して残りの行を更新】** に変わりました。新しいオプション **【新しい行を追加して変更された行を更新】** が追加されました。この新しいオプションを選択すると、Data Integration Hub は変更されていない行を無視します。Data Integration Hub は新しい行を挿入してから、ターゲットに存在する変更された行を更新します。変更された行のみを更新すると、システムパフォーマンスが低下します。

第 9 章

バージョン 10.1.1

- [新機能と改良点, 26 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.1.1 の新機能と改良点について説明します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

自動マッピングを使用した、Teradata データベースへのパブリッシュおよびサブスクライブ

自動マッピングを使用したパブリケーションおよびサブスクリプションを使用して、Teradata データベースソースおよびターゲットとの間でデータのパブリッシュおよびサブスクライブを行います。

Data Integration Hub カスタムパブリケーションおよびサブスクリプションでの Data Quality マッピング使用のサポート

Data Quality マッピングに基づいた Data Integration Hub ワークフローを使用するパブリケーションおよびサブスクリプションで、データおよびファイルをパブリッシュおよび配信します。

パブリケーションでのソーステーブルの結合

1 つまたは複数の結合を作成すると、複数のソーステーブルのデータを組み合わせて 1 つのトピックテーブルを作成できます。結合は、データベース内の 2 つ以上のテーブルのカラムを組み合わせます。複数の結合を作成したり、結合のデータを組み合わせて新しい結合を作成したりできます。結合は仮想エンティティであり、ソースデータベースまたはトピックに作成されません。

Hub 概要図

Data Integration Hub にアプリケーション、トピック、パブリケーション、サブスクリプションなどのエンティティが含まれている場合、Data Integration Hub 操作コンソールのホームページには Hub 概要図が表示されます。

Hub 概要図では、既存のエンティティがカテゴリにグループ化され、その概要が視覚的に示されます。

第 10 章

バージョン 10.1

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 27 ページ](#)
- [変更内容, 28 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.1 の新機能と改良点について説明します。

Big Data

Data Integration Hub **カスタムパブリケーションおよびサブスクリプションでの Big Data Management® マッピング使用のサポート**

Big Data Management マッピングに基づいた Data Integration Hub ワークフローを使用するパブリケーションおよびサブスクリプションで、ビッグデータをパブリッシュおよび配信します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

カスタムパブリケーションおよびサブスクリプションを使用した、Data Integration Hub ネットワーク外部にあるアプリケーション間でのファイルの共有

カスタムマッピングを使用したパブリケーションおよびサブスクリプションを使用して、Data Integration Hub ネットワークの外部にあるリモートアプリケーションとの間で、セキュアな SSH ファイル転送プロトコル（SFTP）を介してファイルのパブリッシュおよびサブスクライブを行います。

マッピング設定タスクを使用した、クラウドベースのアプリケーションへのパブリッシュおよびサブスクライブ

Informatica Cloud マッピング設定タスクを使用して、クラウドベースのアプリケーションとの間でデータのパブリッシュおよびサブスクライブを行います。

自動マッピングを使用した、PostgreSQL データベースへのパブリッシュおよびサブスクライブ

自動マッピングを使用したパブリケーションおよびサブスクリプションを使用して、PostgreSQL データベースソースおよびターゲットとの間でデータのパブリッシュおよびサブスクライブを行います。

Publication Subscription REST API

次の Data Integration Hub パブリケーションおよびサブスクリプションの REST API を使用して、パブリケーションおよびサブスクリプションの実行、パブリケーションおよびサブスクリプションの有効化/無効化、パブリケーションおよびサブスクリプションイベントの再処理を行います。

- Run Publication Subscription REST API。無効化されたパブリケーションおよびサブスクリプションを含むパブリケーションまたはサブスクリプションを開始し、Data Integration Hub が生成するパブリケーションまたはサブスクリプションイベントのイベント ID を返します。

注: Run Publication Subscription REST API を使用して、Data Integration タスクをトリガするパブリケーションおよびサブスクリプションを使用してデータをパブリッシュおよびデータにサブスクライブできます。データドリブンパブリケーションおよびサブスクリプションを使用したデータのパブリケーションやサブスクリプションには、この API を使用できません。

- Change Publication Subscription Mode REST API。パブリケーションまたはサブスクリプションのモードを変更します。つまり、無効化されたパブリケーションまたはサブスクリプションを有効化し、有効化されたパブリケーションまたはサブスクリプションを無効化します。
- Reprocess Event REST API。無効化されたパブリケーションおよびサブスクリプションのイベントを含む、パブリケーションまたはサブスクリプションのイベントを再処理します。

監視と追跡

Data Integration Hub オペレータは、イベントが定義済みのステータスになるとアクションを実行するワークフローが起動されるように、監視ルールを設定できます。

例えば、パブリケーションが失敗した場合に、パブリッシュソースからデータを削除するワークフローを起動します。

セキュリティ

SFTP キーのセキュアストレージ

管理します。Data Integration Hub は、Advanced Encryption Standard (AES) を使用して、SSH のプライベートパスワードおよびキーを暗号化します。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.1 の変更点について説明します。

パブリケーションまたはサブスクリプションでの Informatica Cloud タスクの直接選択

カスタムクラウドパブリケーションおよびサブスクリプションでは、Data Integration Hub ワークフローを作成する必要はありません。操作コンソールでパブリケーションまたはサブスクリプションを作成する場合は、パブリケーションまたはサブスクリプションのウィザードで Informatica Cloud タスクを選択します。

第 11 章

バージョン 10.0

この章では、以下の項目について説明します。

- [新機能と改良点, 29 ページ](#)
- [変更内容, 30 ページ](#)

新機能と改良点

このセクションでは Data Integration Hub 10.0 の新機能と改良点について説明します。

パブリケーションおよびサブスクリプション

Data Integration Hub ネットワークの外部にあるアプリケーション間でファイルを共有

Data Integration Hub ネットワークの外部にあるリモートアプリケーションとの間で、セキュア SSH ファイル転送プロトコル（SFTP）を通じてファイルをパブリッシュおよびサブスクライブします。

クラウドベースアプリケーションとの間でのパブリッシュおよびサブスクライブ

Informatica Cloud Services タスクを使用して、Informatica Cloud がサポートするすべてのクラウドベースアプリケーションに対して、パブリッシュおよびサブスクライブが可能です。

監視と追跡

Data Integration Hub のオペレータは、イベントステータスに基づいてパブリケーションとサブスクリプションを追跡するイベントモニタを作成できます。オペレータは、イベントが定義済みのステータスになるとアクションを実行するルールを作成します。

例えば、特定のサブスクリプションがエラーステータスになると管理者にメール通知を送信するルールや、エラーステータスになったパブリケーションとサブスクリプションを無効にするルールなどを作成します。

変更内容

このセクションでは、Data Integration Hub 10.0 の変更点について説明します。

[イベント]メニューの名前を[監視と追跡]に変更

Data Integration Hub コンソールの[イベント]メニューの名前が[監視と追跡]に変更されました。[監視と追跡]メニューを選択すると、[モニタ]ページと複数の[イベント]ページが開きます。

索引

数字

10.0

- 監視と追跡 [29](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [29](#)
- 動作の変更 [30](#)

10.1

- Big Data [27](#)
- 監視と追跡 [28](#)
- セキュリティ [28](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [27](#)
- 動作の変更 [28](#)

10.1.1

- Hub 概要図 [26](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [26](#)

10.2

- パブリケーションおよびサブスクリプション [24](#)
- 動作の変更 [25](#)

10.2.1

- Informatica Cloud への接続 [23](#)
- トピックの管理 [22](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [10](#), [23](#)
- リポジトリ [22](#)
- 動作の変更 [23](#)

10.2.2

- Big Data [20](#)
- Informatica Intelligent Cloud Services への接続 [21](#)
- トピックの管理 [20](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [20](#)
- 動作の変更 [21](#)

10.2.3

- Big Data [17](#)

10.2.3 (続く)

- Hub 概要 [18](#)
- イベント [18](#)
- エンティティ 管理 [17](#)
- パブリケーションおよびサブスクリプション [18](#)
- ワークフロー [17](#)
- 監視と追跡 [9](#), [11](#), [18](#)

10.2.4

- データベース [15](#)
- パブリケーション [15](#)
- ビッグデータ [15](#)

10.4

- メタデータファイル [13](#)

10.4.0

- エクスポートとインポート [14](#)
- エンティティの複製 [13](#)
- トピックタグ [11](#), [13](#)
- ワークフロー権限 [14](#)

10.4.1

- トピックタグ [9](#), [12](#)

10.5

- イベントのページ [8](#)
- トピックタグ [8](#)

さ

- サブスクリプション [15](#)